

**令和6年第3回壬生町議会定例会
閉会中の継続調査報告書
(教育民生常任委員会)**

教育民生常任委員会 閉会中の継続調査委員長報告

教育民生常任委員会に係る閉会中の継続調査結果をご報告申し上げます。

令和6年第2回壬生町議会定例会において、閉会中の継続調査といたしました「壬生東小学校の先進的な授業の取り組み」について、令和6年7月3日、8月30日の2日間にわたり全委員出席のもと調査しました経過と結果をご報告申し上げます。

壬生町立東小学校では、子どもたちが多様化する中、すべての子どもたちの可能性を最大限引き出すことを目指し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るため、紙ベースによる一斉授業だけではなく、ICTも活用し授業を行っています。その授業の取り組みが先進的なものであるため、所管委員会による調査を行いました。

まず、調査事項についての説明を受け、次にその説明に対する質疑応答が行われ、その後教室に移動し授業視察が行われ、最後に調査事項全体の質疑応答が行われました。

委員からの「子どもたちが理解しているかどうかの判断や助言はどのようにしているか。」という質問に対し、

「チェックテストにより子どもたちがどこまで理解しているか分かります。そして子どもたちはゴール問題を解くという目標に向かいます。問題が解けない場合は授業中に手助けをします。先生と学びたい人は先生に質問します。子ども同士で学びたい人は子ども同士で教え合います。自分だけで学びたい人は自分でずっと考えます。」との説明を受けました。

また、委員からの「非認知能力を鍛え、認知能力によって振り落とされそうな人をグループみんなで協力して答えを見つけ出すという能力も鍛える意図はあるのか。」との質問に対し、

「誰一人取り残されないことが文科省から言われています。個別最適化という言葉で表されますが、その子の資質能力を、その子しか持っていないものをどうやって伸ばすかということが行われています。そのことを意識しているわけではないが起きていると思います。」との説明を受けました。

また、委員からの「『学ぶ力』の定義からで、非認知能力は測定不可能ですが、今後は量的な評価をしていかないとシステム自体が進化していかないと思う。今の段階では、例えばKPIを設定するなど、量的な評価をする予定はないのか。あるいは状況を見ながら、評価段階を作っていく予定があるのか。」との質問に対し、

「非認知能力を図るKPIは難しいと思います。メタ認知のようなものがあり、数値で測るのは、おそらく専門的な検査やテストが必要になります。非認知能力が発揮された子どもの姿を町や学校が定義して、例えば『課題が示されて自分でそのプロセスを決めて学ぶことができること』と定義したときに、それができる子どもの人数や、それを目指す先生の人数がKPIになれば数値化は可能になると思います。」との説明を受けました。

また、委員からの「このシステムの運用は、現場の先生方には広範な裁量が認められている

のか。」との質問に対し、

「校長先生からはビジョンが示されています。他の先生はそのビジョンに向かって、どうやったらできるか工夫し、共有しています。」との説明を受けました。

また、委員からの「児童同士で教え合う中で、トラブルはあるのか。」との質問に対し、

「人間関係がうまくいかないことはあります。それは起きた時にそこで学ばいいというところから先生に指導するようお願いしています。学ぶ力・学力とともに社会性も学び、仲間意識や相手意識が増えてきました。相手意識が増え、今まで主体が自分だった学習が、友達と一緒に勉強することにより、相手を意識して自分が勉強する。できる子ができない子への教え方を、家で勉強してきます。多様な他者を理解することが私のビジョンにあります。いろいろな友達がいて当たり前ということを子どもたちに指導するよう、先生方をお願いしています。」との説明を受けました。

また、委員からの「今日見た授業は、いじめや不登校を少なくするのに効果的だと思いますが、現状はどのような傾向か。」との質問に対し、

「不登校には様々な要因がありますが、『学力不振で不登校』、『人間関係で不登校』は減少している実感があります。」との説明を受けました。

また、委員からの「5、6年生の授業を見ましたが、同じような授業を1年生から始めるのはどうか。」との質問に対し、

「まずは絶対にやらなければいけない、教えなければいけないことを低学年の時にしています。5、6年生と同じような授業をどのように低学年にしていくかを、教員が勉強しているところです。」との説明を受けました。

続けて「低学年の先生は、高学年の姿を見た時に不安があります。しかし『人の話をまず聞く』、『友達を大切にする』などの今一番大事なことをやり続けたいと思います。今のきちんとした指導が、高学年の姿に繋がるというビジョンを持っています。」との説明を受けました。

また、委員から「様々な性格の子どもたちがいると思うが、楽しみながらコミュニケーション・協調性を育てていただきたい。」との意見がありました。

以上、教育民生常任委員会の閉会中の継続調査結果報告とさせていただきます。

令和6年9月3日

教育民生常任委員会
委員長 中川和典